家族のように過ごした日々
卒業してからも集まれる場所
地域ぐるみで支えた学校
佐岡小学校が139年の歴史に区切りをつけ
今年3月で休校となります

特集 大銀杏のもとで

佐岡小学校校歌

作詞 六久保勝義
作曲 濱田 茂実

一、ああ三宝の 秀麗下
清き流れの 物部川
朝夕べに 美わしく
自然の郷に 包まれる
ここぞ我等が 佐岡校
平和の風に 光あれ

二、ここ秀麗の 地を占むる
教えの庭に 集う身の
向上の意気 山高く
久遠の希望 道長し
自然の恩に 応えつつ
若き我等の 励まばや

三、人生の旅 一条に
伸びて進まん 時は今
堅忍不抜の 旗風に
浮華の風潮 おしなびく
いざや立て立て 諸共に
いざや立て立て 諸共に

佐岡小沿革

佐岡小学校は、明治7年に佐岡小学として、旧庄屋宅に設置され、同年、土佐山田町本村の現在の位置に校舎が建てられました。

佐岡小は、戦時中の昭和20年7月に米軍の爆撃を受け、北舎が全壊、南舎が半壊したほか、近隣の民家3戸が全壊しています。このとき、学校に駐屯していた軍人7名が死亡、推定28名が負傷したほか、地元住民4名が死亡、6名の重傷者が出ました。この中には、爆風から赤ん坊の盾となって、亡くなった母親もいました。校門の前には、平和の碑が建てられています。

昭和22年に学制改革により、併設された中学校は昭和30年の学校統合で廃校になりました。

佐岡小学校130周年記念誌『大銀杏のもとで』によると、明治37年度の卒業生は39人、昭和37年まで20～30人程度が卒業しています。

その後、全校児童数は、昭和56年に43人、平成13年に35人、平成19年に20人と減少してきており、現在全校児童10人で、1年生2人・2年生1人・5年生4人・6年生3人。1・2年と5・6年の複式学級と支援学級の3クラスです。

平成17年3月に、県教育委員会が示した『高知県における小中学校の適正規模について』を受け、検討してきた結果、今後、児童数が増える見込みがなく、今年3月をもって、139年続いてきた歴史のある佐岡小学校は、休校となりました。

▲背景透かしは佐岡小校章

◆佐岡小学校全校児童数の推移

年	全校児童数（人）
平成18年	24
19年	20
20年	20
21年	16
22年	12
23年	10
24年	10

土佐山田町佐岡地区

佐岡地区（旧佐岡村）は、土佐山田町東部、物部川の西側、北岸に位置し、佐野・大平・仁井田・本村・中後入・西後入・大後入・有谷・佐竹の９地区があり、日当たりのよい平坦地と山地からなる。地名の起こりは、南の半坂山を北に向かって越えるとき、物部川が右に、連なる丘陵は左に望まれることから佐岡と呼ぶようになったという。佐岡村は昭和２９年に合併し、旧土佐山田町を形成する。地域には森林や自然についての研究・研修施設を置く県立森林総合センターがある。同地区の人口は明治９年に１，６０８人。現在は６６１人（平成２５年２月１日現在）。

地域の皆さんのおかげで 素晴らしい教育がなされました

佐岡小学校長 馬場悦夫

6年前に佐岡小学校に赴任され、休校にあたり、奔走された馬場校長にお話をお伺いしました。

就任当初から休校の話が地域から出てきており、校長として存続に向けて努力する余地はありましたが、このようなことになって残念です。

複式学級での授業はハンディがあり、先生にも負担が大きかったが、少人数ならではの、いいところを伸ばしていこうと取り組んできました。一人ひとりに目がゆき届くので、放課後や長期休暇中にも指導ができて学力の劣る児童にも対応ができていたと思います。

6年前から、片地小学校と合同で修学旅行に行き始め、徐々に片地小と交流の機会を増やし、遠足・授業などの行事を通じて相互交流を行ってきました。

保護者全員が日ごろから協力してまとまろうとしてくれ、残った児童は全員片地小学校に転入することになりました。

また、地域ぐるみで学校を支えてくれたおかげで、二重の教育活動がされて、他の地域にはない手厚い教育がなされたと思います。地域の皆さんに感謝いたします。

休校後、校舎の利用については、卒業した中高生もこれまで運動会などの行事に参加してくれたので、子どもたちの集まれる場となってほしいと思います。